

会津地域に適したらっかせい品種

福島県農業試験場会津支場

平成12・13年福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

普通畑作物－落花生－品種

分類コード 02-06-01056700

2 担当者

渡部 隆・齋藤正明・齋藤弘文・大谷裕行

3 要旨

会津地域における畑地利用の促進を図るため、特産となりうる畑作物を選定し、その栽培特性を調査してきた。今回は、水田転作作物として昭和50年代には会津地域に100ha前後の作付け面積があった「らっかせい」を対象に、その特性および生産性を検討した。

- (1) 開花期はタチマサリが最も早く、次いで郷の香、ナカテユタカ、千葉半立の順であった。主茎長は郷の香 $\geq$ タチマサリ $>$ ナカテユタカ $\geq$ 千葉半立の順で長く、最長分枝長は千葉半立 $\geq$ タチマサリ $>$ 郷の香 $>$ ナカテユタカの順であった。分枝数は千葉半立 $=$ ナカテユタカ $>$ 郷の香 $>$ タチマサリの順であった。
- (2) 莢実重、子実重とも郷の香が優り、次いでナカテユタカ $>$ タチマサリ $>$ 千葉半立の順であった。剥実歩合、上実歩合は郷の香 $=$ ナカテユタカ $>$ タチマサリ $>$ 千葉半立の順であった。上実百粒重はナカテユタカ $>$ 郷の香 $>$ 千葉半立 $>$ タチマサリの順であった。子実の外観品質は郷の香、ナカテユタカともに、タチマサリ、千葉半立に優った。
- (3) 以上のことから、収量性、品質等の品種特性について、供試した4品種を比較すると、郷の香が最も優り、次いでナカテユタカの順であった。

4 その他の資料等

会津地域における落花生栽培に関する研究(福島県農業試験場研究報告 第24号:1988)